

トラ・ゾウ保護基金年次報告書

March 2023



ゾウ保護基金



© Wildlife Trust of India

トラ保護基金



© Shin Yoshino



© Susumu Murata

イリオモテヤマネコ保護基金

タイガーサミットで寅年を振り返る

12年前の寅年（2010年）に、ロシアのプーチン大統領の呼びかけでトラ生息国13か国の閣僚が集合しロシア・サンクトペテルブルグで開催された第1回タイガーサミット。各国同意のトラ保護宣言は「次の寅年（2022年）までに野生のトラの個体数を倍増させる」というものでした。その12年後の昨年9月にはロシア、ウラジオストクで第2回タイガーサミットが開かれ（ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあってか？プーチン大統領始めトラ生息国閣僚の多くはリモートで参加）、トラ保護宣言が採択されました。最近の世界のトラ個体数ですが、JTEFはIUCN（国際自然保護連合）の発表に基づいた数を発表しています。しかし各国の調査方法の調査年時、科学的信頼性の程度のばらつきが大きいので、前回の個体数と単純に比較できるわけではありません。現在のIUCN（国際自然保護連合）発表の個体数は、成熟個体数が3159(2608-3905)頭です（2014年時点）。ラオス、ベトナム、カンボジアのトラはおそらく絶滅、トラの保護がうまくいっている国はインド、ネパール、ブータンということでした。

第1回タイガーサミットで採択された宣言では、トラの生息地保全（コリドーの確保）、トラ、獲物、生息地の定期的なモニタリングや、トラ、身体部分の密猟、密輸、違法取引の根絶。法執行機関の強化のほかに、市民社会を巻き込んだ教育の促進、強化。周知の確立、国内資金の調査、

国際金融機関へ経済的、技術的支援の訴求、定期的なハイレベル会議の開催などを実施するとされていました。

昨年の第2回タイガーサミットの宣言では、第1回目の宣言を踏まえ「生態学的なつながりの劣化を防ぐため、土地利用政策において生態学的コリドーを主流化する」「さまざまな資金源の活用」「地球規模の気候変動での生物多様性保全におけるトラ保護の重要性の認識」「東南アジアのトラ回復行動計画実施の支援」などの強化を求め、さらに「必要に応じた再導入と、それに伴って必要となる十分なトラの獲物の確保」「人獣共通感染症の伝染を防ぐためのOne Healthアプローチの採用」が採択されました。

現在、絶滅地域（カザフスタン、カンボジア、タイのトラが失われた区域）へのトラの再導入計画が進んでいます。20年ほど前にインド国内でトラがいなくなってしまった保護区へ獲物となる草食動物を増やしてから近隣地域のトラを再導入したのですが、数年で繁殖できず死んでしまった個体もあり、そう簡単ではありませんでした。その教訓が生かされる必要があります。カンボジアではトラを再導入すれば観光客の増加が見込まれると安易に考えている記事もありました。観光客が増えて観光収入が増えても、トラが回復するのではありません。周到に準備された計画の実施が求められます。



©JTEF

トラ

密猟を助長するトラファーム

1986年に中国の黒竜江省で初めて虎骨の商業利用を目的としたトラファームが設立され、繁殖トラ由来の虎骨入り漢方薬の合法的な取引が始まりました。1993年に中国はワシントン条約の履行を求められ、トラの取引を禁止しましたが、需要は収まらず動物園や研究所の名称のもとに残ったトラファームは2000年頃から東南アジアに広がっていきました。

昨年、9月に開催された第2回タイガーサミットの冒頭で、ロシアの法務大臣が「トラの違法取引に対する影響が衰えずに続いているのに、トラファームを段階的に廃止するという問題に対処するための包括的な戦略がまだないことに深刻な懸念を表明する」と述べました。

ワシントン条約会議でも需要の増加と密猟の増加への懸念から毎年議題に上っていますが、中国政府はむしろ国内のトラ取引禁止を部分的に緩和することを検討しています。昨年11月にパナマで開催された第19回ワシントン条約会議場でも、国際NGOのEIAやFour Pawsがトラファームの現状を報告しました。野生ではトラの生息が危ぶまれている中国、ベトナム、タイ、ラオスでトラファームの数が増え続け、飼育トラは野生の3倍近い1万2500頭とされています。さらにトラが一度も生息したことのない南アフリカ共和国にもトラファームがあり、1500頭ものトラが飼育されているとの報告でした。

2002年、中国政府は中国国内の動物園のみで飼育されている約50頭の絶滅寸前種アモイトラの数頭を野生復帰の訓練のために南アフリカへ送り繁殖させ、北京で開催される2008年のオリンピック時にその繁殖個体を中国で野生復帰させる方針を発表しましたが、その後成果の報告はありません。本来の生息地から遠い、植生も気候も獲物も異なる環境でトラを中国に再導入するための復帰訓練を行うことは事実上不可能だと考えられます。

その後、アモイトラの野生復帰の話は聞かれなくなり、現在南アフリカではライオンと隣り合わせの金網で囲われたスペースで多頭飼育され、スポーツハンティングの対象にもなっているとのこと。



©Shin Yoshino

アフリカサバンナゾウとマルミミゾウ

IUCN (国際自然保護連合) が、マルミミゾウとアフリカサバンナゾウそれぞれの現況報告書を取りまとめ中です。2022年の終わりには以下の速報が発表されました。(CoP19 Inf.64 (Rev.1) “The status of Africa’s elephants and updates on issues relevant to CITES” by IUCN/SSC African Elephant Specialist Group)

アフリカサバンナゾウの生息状況

サバンナゾウはアフリカの24の国に生息しています。2016の報告書では、マルミミゾウと合わせて41万5000頭と推定されていました。この数の他に、裏付けが十分ではない「推測」として11万7000頭が存在する可能性があります。2022年の時点では、以下の5か国(いずれも象牙取引の再開を求めている国々)の最新状況が暫定的に報告されています。

ボツワナ: 推定12万8362頭。2006年までは急激に増加していたが、2010年以降はほぼ安定している。2018年には密猟が勃発した。

ナミビア: 推定2万4634頭。1995～2006年までは急激に増加したが、2015年には伸びが鈍化し、2019年には安定するに至った。

南アフリカ共和国: 推定4万4326頭。1995～2006年までは急激に増加し、2006～2015年にはわずかな増加がみられる。ただし、うち3万1527頭が生息するクルーガー国立公園は、ゾウが国境を越えて自由に移動できる大リンボポ国際公園の一部を成しているため、その個体数は年によって変動を伴う(ある年にモザンビークから国境を越えて入ってきたゾウは、南アフリカのゾウとしてカウントされる)。

ジンバブエ: 7万4932頭。1995～2006年までは急激に増加したが、2006～2015年には減少している。

マルミミゾウの生息状況

マルミミゾウは、2021年にIUCNアフリカのレッドリストでサバンナゾウと別種とされました。22の国に生息していると考えられています。うち13か国における調査結果にもとづく個体数の総計は、約13万3000頭と推定されました(生息域は全体で310万km²)。これ以外に、十分な根拠に欠ける「推測」として1万5000頭から2万8000頭が生息する可能性があります。推定値13万3000頭の94%が中央部アフリカに集中しており、特にガボンには約9万5000頭と、全体の70%以上を占めるマルミミゾウが生き残るための最後のとりです。



アジアゾウ

©Shin Yoshino

アジアゾウの生息状況

南アジアと東南アジアの13か国に生息するアジアゾウは、486,800 km²の生息域に、48,323～51,680頭が生息しています。一方、それらの国々では14,930～15,130頭のアジアゾウが飼育されています。アジアゾウ全体で見ると、近年は個体数は安定していますが、カンボジア、インドネシア（スマトラ島）、ラオス、ミャンマー、ベトナムの生息状況には大きな懸念があります。ベトナムでは、1980年代には1,500～2,000頭生息すると推測されていましたが、現在では100～130頭に過ぎないと考えられています。現在の最も大きな脅威は生息地の分断です。これと関連するゾウと人との軋轢（トラブル）、その結果としての地域住民による報復的な密猟も、各地で深刻化しています。象牙目的や皮目的の密猟も、ミャンマーなど一部の地域では大きな問題です（特に皮目的の密猟）。生きたゾウ（特に子ゾウ）の生け捕りはカンボジア、北東インド、ラオス、ミャンマーで発生しています。（CITES SC74 Doc. 68より。）

バングラデシュのゾウ

アジアゾウの生息状況調査は、多くの生息国でアフリカのゾウよりもさらに、遅れています。そのような中、南東バングラデシュの小さなゾウ個体群の状況が最近報告されています。この地域では、1989～2015年の間に、ゾウの生息域の36%が失われてしまいました。フン調査の結果、ゾウは樹木と竹が多く、樹冠でおおわれた生息地をより好むことがわかりましたが、2015年に残った生息域でも、7つの区画で森林の上部が樹冠でおおわれている割合が減っていました。（S.u A. Chowdhury ほか、2022. Assessing Asian elephant habitat in south-eastern Bangladesh. Gajah 55. IUCN/SSC/Asian Elephant Specialist Group）この報告は、アジアゾウの生息域内に点在する小さな個体群全般に起きている現象を象徴しているように思われます。何も対策をとらないと、個体群のサイズが徐々に小さくなり、やがてその地域からゾウが消えてしまう、そのような状況が同時多発すると、アジアゾウという種の存続そのものも、より危ぶまれることになります。



イリオモテヤマネコ

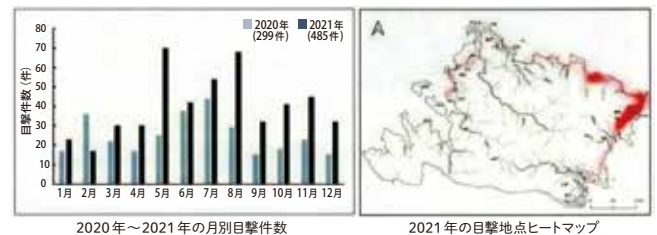
©Susumu Murata

イリオモテヤマネコの生息状況

2022年3月11日に石垣島国際サンゴ礁研究モニタリングセンターで行われた「令和3年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会」で、最新の生息状況モニタリングの結果が発表されました。今年も自動撮影装置を設置してある27か所すべてのポイントでイリオモテヤマネコ（以下ヤマネコ）の生息が確認されています。総確認個体数はオス25、メスが11、性別不明が2個体の計38個体となっています。オスは、昨年度と比べて増加していますが、メスについては7か所のモニタリングポイントで個体数が減少しており、来年度以降の個体数がどのように変化していくか注視する必要があります。

イリオモテヤマネコの目撃情報

2021年に環境省西表野生生物保護センターに寄せられたヤマネコの目撃情報は、485となりました。目撃数が減少した2020年の299件に比べて1.6倍となっています。特に目撃が多くなったのが5月と8月で、特定の個体が繰り返し路上出没した高那～ユツンと相良～野原での目撃頻度が高くなっています。相良～美原間ではその後も路上出没を繰り返す個体が確認されており、やまねこパトロールでは付近での注意喚起活動に力を入れています。



イリオモテヤマネコの交通事故

2022年は夏までヤマネコの交通事故は発生しませんでしたでしたが、8月1日に相良川付近の県道でオスの幼獣の死亡事故が発生し、翌8月2日には1日の事故地点のすぐ近くでメスの幼獣の死亡事故が発生してしまいました。相次いで死亡した仔ネコは兄弟とみられています。相良付近では事故後も親猫とみられる成獣の路上出没が続いたため、やまねこパトロールでは注意喚起や緊急パトロールを行いました。また、10月25日には高那でメスの個体、12月23日には浦内でオスの個体が死亡しており、年間4頭のヤマネコが死亡してしまいました。西表島の来島者数は夏以降コロナ以前の水準まで戻ってきており、今後は本格的にインバウンドの来島も増えてくることが予想されます。やまねこパトロールでは夜間パトロールに加え、現場での注意喚起や草刈り活動などに力を入れていく予定です。

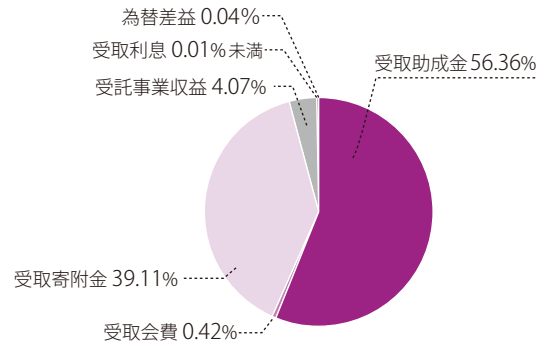
2022/8/1	オス	幼獣	相良
2022/8/2	メス	幼獣	相良
2022/10/25	メス	成獣	高那
2022/12/23	オス	成獣	浦内(稲葉林通入り口)

2021年度トラ・ゾウ保護基金 決算報告

JTEF2021年度決算(2021年11月1日～2022年10月31日)

収益 総合

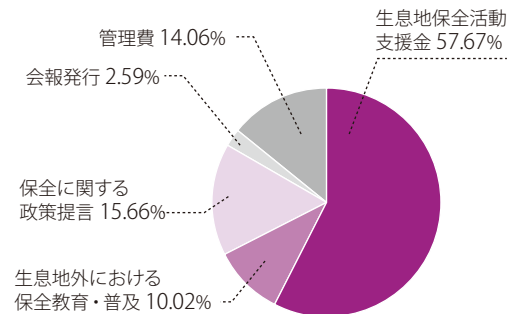
	金額(単位:円)	比率
受取助成金	15,022,670	56.36%
受取会費	111,000	0.42%
受取寄附金	10,425,229	39.11%
受託事業収益	1,084,934	4.07%
受取利息	68	0.00%
為替差益	10,912	0.04%
合計	26,654,813	



※ 共通の収入は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの取支現状を考慮して適正に配分しています。

費用 総合

	金額(単位:円)	比率
生息地保全活動支援金	14,833,491	57.67%
生息地外における保全教育・普及	2,576,523	10.02%
保全に関する政策提言	4,027,951	15.66%
チャリティー・イベントの開催	0	0.00%
会報発行	666,576	2.59%
管理費(人件費・水道光熱費・消耗品費、その他)	3,614,969	14.06%
合計	25,719,510	



※ 共通の経費は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの取支現状を考慮して適正に配分しています。

2021年度 トラ保護基金 事業の概要と決算報告

JTEF2021年度決算(2021年11月1日～2022年10月31日)



[事業の概要]

▶ 生息地支援

中央インドトラ保護プロジェクト

- 人件費を除く支援額その他経費: 2,015,582円(予算額: 1,600,000円)
- 現地パートナー: インド野生生物トラスト(WTI)

【目的】 マハラシュトラ州における保護区内外のトラの生息地確保・密猟防止

【概要】 ティペシュワール野生生物保護区、イサプール野生生物保護区、ペンチ・トラ保護区その他の保護区の内外、保護区間のコリドー一部において、以下の活動を行う。

- ・ 住民参加のトラと人とのトラブルに対処するための住民組織運営、諸活動の立案・実施に対するサポート
- ・ 保護区の最前線で活動する森林局スタッフに対するパトロール装備、などの支援
- ・ 森林火災防止活動



【事業の概要】

▶ 生息地支援

南インド・ケララ・アジアゾウ保護プロジェクト

- 人件費を除く支援額その他経費：1,858,600円
(予算額：1,600,000円)
- 現地パートナー：インド野生生物トラスト (WTI)

【目的】

南インド・ケララ州のワヤナッド森林帯とニランバー森林帯に確認されている5つのゾウのコリドーを確保する。

【概要】

ゾウのコリドーの利用状況、ゾウの移動を阻害する要因およびコリドー内外の村の暮らしの調査を行い、それを踏まえたコリドー確保策を立案、実施する。

▶ 政策提言

象牙市場閉鎖プロジェクト

- 人件費を除く決算額：3,175,951円
(予算額：2,450,000円)
- 直轄事業

【目的】

日本の国内象牙市場を閉鎖する。

【概要】

- ・国内象牙市場および象牙の違法取引に関する実態を調査し、それらの規制の実効性を分析する。
- ・国内象牙市場閉鎖のあり方について、関係機関に提言する。
- ・象牙を使用しないよう、消費者に教育・普及する。

*象牙市場閉鎖プロジェクトの一部は、公益財団法人緑の地球防衛基金から助成を得て実施しています。



【事業の概要】

▶ 生息地支援

イリオモテヤマネコ生息地保全プロジェクト

- 人件費を除く支援額その他経費：120,245円
(予算額：142,400円)
- パートナー：
イリオモテヤマネコ生息地保全調査委員会
(委員長：土肥昭夫)
西表大原ヤマネコ研究所 (所長代行：岡村麻生)
- 直轄事業

【目的】

西表島低地部におけるイリオモテヤマネコ生息地の保全

【概要】

- ・西表島低地部の土地利用に際して生息地保全のために配慮すべきことを調査し、関係機関へ提言する。
- ・ヤマネコを含む絶滅危惧種の回復を中心とした、生物多様性保全のための法制度を関係機関へ提言する。

交通事故防止対策

- 人件費を除く支援額その他経費：1,993,569円
(予算額：2,495,200円)
- 直轄事業

【目的】

イリオモテヤマネコの交通事故防止

【概要】

- ・地元の人々の自発的な協力のもとに、夜間、目撃多発地点をパトロールする。
- ・西表島の地元の人々、観光客に対して、ヤマネコの交通事故防止について普及する。
- ・関係機関と協力して、路肩の草刈り、アンダーパスの清掃等交通事故防止につながる作業を行う。

ヤマネコのいるくらし授業

- 人件費を除く支援額その他経費：479,066円
(予算額：631,400円)
- 直轄事業

【目的】

西表島で、イリオモテヤマネコ/西表島の自然との「共存」を受け入れるだけでなく、一人一人が「共存」を日常の生活の中で意識し行動するような社会をめざす。

【概要】

- ・西表島の子どもたちに、小中学校の場でヤマネコの生態と社会を踏まえ、ヤマネコの立場に立って島の暮らしのあり方について学ぶ機会を提供する。大人への波及効果も重視する。そのためには、現場の教員が主体となった授業実践、学校側が組織的にそれを支える仕組み作りを促すことが必要である。そこで、以下の活動を行う。
- ・現場教員が本授業の意義とそれを実践する技能・工夫を身に着ける教員研修会の実施。
- ・教員の授業実践に関する相談、資料提供等の協力
- ・各校が教員の授業を受け入れる環境整備。そのため教育委員会が研修会を公式行事化するようはたらきかける。
- ・教員による授業とは別に、必要に応じた出張授業の実施。

イリオモテヤマネコの日事業 / JTJEF 西表島支部「やまねこパトロール」運営

- 支出額：3,813,215円 (予算額：3,841,000円)
- 直轄事業

【目的】

イリオモテヤマネコの交通事故防止、イリオモテヤマネコの生息地に悪影響を与える土地利用防止、イリオモテヤマネコの生活をかく乱する観光のやり方の防止

【概要】

- ・西表島の地域住民を対象としたシンポジウムの開催、観光客に対する教育普及ツールの開発・普及等の教育普及活動を行う。

中央インドトラ保護プロジェクト

中央インドは「トラ天国」ともいわれ、野生のトラの7割以上となる約3000頭が暮らすインドの中でも、保護上重要な地域です。カーナ、サトゥプラ、ペンチ、メルガート、タドバ、ナグジラ・ナワゴン等いくつかの保護地域を含む熱帯落葉樹林帯とトラの移動に不可欠な森林コリドーがトラを育てています。コリドーとなる森林が減少すると人とのトラブルが増加してしまいます。そこで現在では、トラ保護基金の現地パートナー WTI (インド野生生物トラスト) の活動地も、チャティスガル州、マディアプラデシュ州、マハラシュトラ州、ビハール州の一部、テランガナ州と広範囲に及び、森林局スタッフや地元の人たちと協力して、トラが移動できるコリドーを守る活動をさらに発展させています。

Central India Landscape



森林火災への対応

2021年、インドでは4月1～14日までの2週間で82,170件の森林火災が起き、ここ数年の倍近い件数でした。気温上昇は世界的な問題ですが、インドでは広大な森が焼かれ、**インド森林調査 (FSI) の発表では21.4%の森林が消失しました。**特に中央インドは最も脆弱な地域の1つで昨年は約28,000件(4,411件の大規模な火災)が報告されました。自然発火以外に3月から5月は毎年、中央インドの地域住民は非木材林産物(ジャムやお酒を造るマファの花やこの地域でたばこにしているテンドウの葉)を取るために、火をつけます。

JTEFは2021年末に森林火災の拡大防止に、葉っぱを蹴散らすリーフブローア4台とガソリン20リットル入りタンク20個をバンダブガル・トラ保護区へ送りました。



人と野生動物との対立への取り組み

2002年以降、隣接するチャティスガル州からマディアプラデシュ州に移動するアジアゾウが増えてきていて、2018年には40個体の群れと3頭の子ゾウがバンダブガル・トラ保護区に移動しました。この4年間でこの群れはバンダウガルを彼らの新しい繁殖地にしました。

中央インドはトラの密度が高く、さらにゾウが移動してきたため、人と野生動物の衝突が増加しています。2021年の9月には井戸に落ちていた麻袋の中から「T-32」と命名されていたメストラの死体を見つけましたが、その死体には金属のワイヤーが巻かれていました。

中央インドでは2021年に127頭のトラの死亡が報告され、最多はマディアプラデシュ州の42頭、続いてマハラシュトラの27頭でした。この地域ではトラの個体数が急激に増えていますが、生息地は足りず縄張り争いから死んでしまうトラもいます。しかし、この自然因とは別に、偶発的や作為的に密猟を引き起こす罠や感電死はトラにとって明らかな脅威です。

人と野生動物との対立への取り組みとして新たにコリドーを守る組織を認定

独り立ちした若トラは親元を離れ自分のテリトリーを求め分散しますが、そうすることでトラの遺伝的多様性が維持されています。そこで、保護区だけでなく、トラたちが保護区間を安心して行き来するため、保護区をつないでいる森＝コリドーの保護が欠かせません。実際にコリドーを守るにあたっては、人と野生動物との共存という目標を掲げ、地域社会の中に「グリーン・コリドーの守り手」を増やすことを目指しています。WTIは今までアジアゾウの生息密度の高い南インドを中心に5つの地域(北西インド、北東インド、中央インド、南インド)で23のチームを動員し、101のコリドーのうち46をターゲットにゾウのコリドー保護プロジェクトを行ってきました。WTIはこのモデルを拡張して、対象となる中央インドでタイガー・コリドーを確保する計画を立てています。

具体的には、まず村落ベースの組織や個人のネットワーク化を支援します。次にその中から、コリドー内外でヒトや家畜への接近しないようトラの動きを監視し、同時にトラに危害が加えられないよう人々の行動に注意を払う「グリーン・コリドーの守り手」を認定します。「守り手」は、WTIの助言と指導を受けながら、地方政府、州政府、中央政府、およびその他の利害関係者(土地を利用する民間業者など)と良好な関係を保ち、コリドーの機能を妨げる新たな脅威を未然に防止します。これらの活動と行動を通じて、「守り手」を中心としたチームはトラの保護のメッセージを広めていきます。



早魃にそなえ水飲み場に太陽発電からのポンプを設置

新たに指定されたカナルガオン野生生物保護区の支援をはじめました。このエリアでは、もともとマハラシュトラ州林業開発公社がチーク木材を生産していましたが、保護区指定により、伐採が規制されることになったものです。この保護区は、トラの生息密度が非常に高いタドバ・アングリ トラ保護区からカワル トラ保護区へと若いトラが分散し、またなわばりを持たない放浪トラが行き来するための中継地になっていることから、非常に重要な位置にあるのです。



カナルガオン野生生物保護区では、乾期に極端に水が不足しますが、それは保護区内に滞在したり、そこを移動経路にすることに大きな支障となります。そうすると、両トラ保護区間の遺伝的交流が断たれるおそれも出てきます。そこで今年度、WTIスタッフが保護区を視察した上で、水飲み場に水をくみ上げるための太陽光発電式のポンプを設置し、8月には保護区長がトラをはじめ草食動物が池にやってくるのを目撃したと、ポンプがうまく機能していることに感謝していました。12月頃からの乾期にはカメラトラップを設置するように依頼しました。



ソーラー式ポンプに接続された導管と池



ソーラー式ポンプの設置を表示する看板

南インド アジアゾウ保護プロジェクト

インドには、世界全体（48,000～52,000頭）の60%を占める30,000頭のアジアゾウが生息しますが、その約半数が集中するのが南インドです。そこは、約6,500頭からなる世界最大のアジアゾウ個体群の棲み処でもあります。JTEFは現在、ケララ州のワヤナッド地域で、現地パートナーのインド野生生物トラスト（WTI）とゾウの保護活動を行っています。「ワヤナッド野生生物保護区」（344.44km²）には、ゾウのほか、トラ、ガウル（世界最大の野生ウシ）、クジャクなどが生息します。この保護区は、ニルギリ生物圏保護区の一部を成し、北東側ではバンディプール国立公園・ナガラホレ国立公園（カルナータカ州）と、南東側ではムドゥマライ国立公園（タミルナードゥ州）と接している重要な場所です。

ゾウの個体群が移動して生息地を広く利用するために重要ですが、他のアジアゾウ生息地同様、ワヤナッド地域でも最大の脅威は生息地の分断です。アジアゾウの中では最高の条件が残されてきたこれらの生息地にも、水田や、バナナ、ココナツヤシ、コーヒーなどの農園が食い込み、場所によってはゾウの行き来できる森林が帯のように細くなって今にも途切れてしまいそうです。そこでゾウが行き来するための森林＝「コリドー」を守るために、ケララ州森林局および地域住民協力のもとで活動が重要となります。



ワヤナッド野生生物保護区で、保護区スタッフにパトロール用装備を提供

ワヤナッド野生生物保護区で、現場をパトロールし、密猟、盗伐、森林火災などに目を光らせる保護区スタッフたちに、116本の懐中電灯、124個のパトロール用ザックを、贈呈しました。



ワヤナッド野生生物保護区のスタッフにザックと懐中電灯を贈呈

ケララ州の政策形成に大きな影響を与えるメディアへの働きかけ

ゾウの生息地を結ぶコリドーの重要性を、地域の人々、政治家をはじめ様々な人々に理解してもらうことはとても重要です。そこで、2022年8月11日、世界ゾウの日（毎年8月12日）を記念して、ケララ州のメディア関係者を招いた会議を開催し、ケララ州におけるゾウの通行の安全をはかることを積極的に報道した若いジャーナリストに「ゾウの友賞」が送られました。また、ケララ州におけるゾウのコリドーを広報するポスターも公表しました。

象牙市場閉鎖プロジェクト

1. 東京都「象牙取引に関する有識者会議」に対する働きかけ

小池百合子東京都知事のリーダーシップによって2020年1月に開始された「象牙取引規制に関する有識者会議」、提言なしで終了か?という不安を抱えて迎えた2022年3月の最終会合で、都知事への具体的な提言を含む報告書が無事採択されました。

この提言には「…世界の主要国でも、象牙取引を法規制した上で芸術品等は狭い例外として取引が認められている。東京都は、日本の象牙製品の文化・芸術的な側面を評価しながら、象牙取引がゾウの密猟や違法取引に寄与しないようにするために、条例又はその他の効果的な方法を検討されたい」という提書です。

日本が象牙取引を一掃するためには国レベルでの措置を取らなければなりません、将来そのような行動がとられるかは不確かです。そこでJTEFと27の世界のNGOは、小池百合子東京都知事宛に、感謝と提言の速やかな実行を要望する書簡(英日)を送りました。そして、都内の法的措置の実施は、日本が世界に向けて野生ゾウの未来の保障へコミットを示すべきこの時に、東京都がリーダーシップを発揮することであると訴えました。



2. ワシントン条約会議における活動

2019年に開催されたワシントン条約第18回締約国会議(CoP18)は、2016年CoP17が勧告した「国内象牙市場閉鎖」の実施を進展させるため、未実施の締約国に対し、「その国内象牙市場が密猟または違法取引の一因とならないためにどのような措置を採っているかについて、条約事務局に報告する」よう求めていました。未だ市場閉鎖していないと報告した国のうち、ゾウの生息しない国(象牙を輸入しないと市場が成立しなかった国)は、オーストラリア、日本、ニュージーランドの3か国だけでした。

そこで2022年にフランス、リヨンで開かれた第74回常設委員会では、アフリカのゾウの生息国であるセネガルとリベリアが、「日本から違法に輸出された象牙が海外(特に中国)で頻繁に押収されていること、その象牙の出所は、合法に販売されている在庫が大量にある日本である」と指摘する文書を提出しました。審議でも、ブルキナファソ、ガボン、EU、米国、中国など圧倒的多数の意見により、CoP18で採択された決定を更新、未閉鎖国に今後も報告義務を課すようCoP19に求めることを決めました。

さらに、EUが重要な提案をし、常設委員会がこれを留意することになりました。それは、ワシントン条約には、違法取引された象牙の押収データを分析報告するプログラム(ETIS)がありますが、合法的な国内象牙市場をもつ国にかかわる象牙押収データの分析と、その結果を可能ならば2023年11月のCoP19に向けて提出されるETIS報告書に盛り込むというものでした。

国際社会の懸念は、日本の象牙市場が、違法輸出の供給源になっていることです。2018～2020年に日本から輸出された象牙の押収は、中国等の新聞に載っただけで76件に及ぶのに、日本は「把握していない」「ETISに日本が違法輸出に寄与しているとは書かれてない」として、違法輸出の

実態を認めてきませんでした。ETISの報告書で日本の違法輸出の実態が示され、日本の市場が違法取引の一因となっていることが露わになれば、日本ももはや「把握していない」と言い訳はできないことになります。

JTEFの行った活動

SC74開催直前に、日本政府による国内象牙市場の規制にいかに関与しているかを報告書にまとめて公表しました。これが締約国の目に留まり、上記のセネガルとリベリアが常設委員会に提出していた文書にもJTEFの報告書が引用されています。

また、SC74に登録オブザーバーとして参加したJTEFは、会議の間には世界のNGOと協力し、関係国に日本の国内象牙市場の問題点を説明。日本の象牙市場閉鎖の重要性を訴え、国内象牙市場閉鎖の審議では、17のNGOを代表して発言し、国内象牙市場閉鎖を追求することの重要性、特に日本の合法象牙市場の規模の大きさ、現にそこから象牙が違法に海外流出している事実を訴えました。そして上記のEU提案への強い支持を強調しました。



イリオモテヤマネコ生息地保全プロジェクト

西表島観光管理問題

2021年7月、ユネスコの世界遺産委員会は、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」を世界自然遺産に登録しました。同時に、IUCN（世界自然保護連合）の勧告どおり、「西表島の来訪者数を現在のレベルにとどめるか、削減すること」を日本政府に勧告することを決議しました。この決議に対応するための「西表島観光管理計画(案)の改定作業が、現在行われていて(事務局 沖縄県)、やまねこパトロールは、会議が公開で開催されることとなった第2回作業部会から参加しています。しかし、やまねこパトロールが遺産委員会の決議に則して入島観光客の総量規制を行うべきだと求めたにもかかわらず、行政は来訪者数を絞ることを断念し、「利用を分散させる」ための「混雑カレンダー」を利用者に示し、入島状況を「慎重に監視する」とどまっています。世界遺産委員会決議への対応として不十分なものと言わざるを得ません。また、エコツーリズム推進法の「特定自然観光資源」として島内の5エリア(西田川、ヒナイ川、古見岳、テドウ山、西表島縦断道)で行われる予定の入域制限についても、入域枠の分配や承認制度などは未だ具体化しておらず、島内における観光利用は事実上無制限の状態となっています。

西表島の入域客数はコロナ以前の水準に戻りつつあります。テレビなどのメディアで取り上げられる機会も増え、今後本格的に世界遺産登録の影響が出てくることが予想されます。やまねこパトロールでは、改定作業中の観光管理計画と、これから本格的な議論に入る「特定自然観光資源」による入域制限が西表島の実態を反映し、オーバーツーリズム対策として実効性を持ったものとなるよう、引き続き関係機関に働きかけていきます。

イリオモテヤマネコの交通事故

(※2023年12月末までに4件の事故が確認)

イリオモテヤマネコの交通事故は7月まで無事故でしたが、8月1日、2日と2日連続で、兄弟と思われる仔ネコの死亡事故が発生してしまいました。事故はいずれも古見～美原間の峠道で非常に近い場所で起きていました。事故後も親ネコと思われる成獣が頻りに路上出沒していたことから、現場付近での注意喚起活動を行いました。その後、親ネコの路上出沒が落ち着いたため、緊急の注意喚起は終わりましたが、現在はLEDライトが点灯する光る看板や、のぼりなども導入し、ヤマネコの目撃多発地点での注意喚起を定期的に行っています。特にLED看板は暗い西表島の県道ではとても目立ち、通行車両が減速していく様子がはっきりとわかります。さらに、通りかかった方から目撃情報の提供があるなど、ドライバーとのコミュニケーションが生じやすく、普及啓発の効果は非常に高いのではと期待しています。



注意喚起



ヒナイ川

県道の除草作業

ヤマネコの目撃多発地点では、路上に出たヤマネコをドライバーから発見しやすくするために除草作業を続けています。環境省職員、パークボランティアとの合同除草作業も恒例となりました。2022年は特にヤマネコの目撃情報が多く、雑草が繁茂しやすい浦内～干立、西ゲータを集中的に作業したほか、インダ崎、美田良、野原でも実施しました。今後は、ヤマネコの路上出沒多発地点で常に見通しが良い状況を保つことを目指し、さらに草刈りの回数を増やしていきます。



除草前

除草後

ヤマネコのいる暮らし授業

2022年度のヤマネコのいる暮らし授業は、大原中学校で無事開催できたほか、西表小学校でも1回目の授業が終わりました。恒例となっている上原小学校も通常通り実施予定です。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2年間中止となっていた教員研修会（竹富町教育委員会と共催）もオンラインにて実施。さらに、これまでヤマネコのいる暮らし授業で協力関係にある江郷下智美先生が赴任された西表小では初めて校内研修会を行うこともできました。この2年間は、新型コロナウイルスの感染対策で保護者を含めた学校内への立ち入りが制限されることがあるなど、学校への積極的な働きかけが難しい状況でしたが、現在は、徐々に通常通りの学校スケジュールに戻りつつあります。今後は、西表島島内の感染状況に応じてオンラインでの授業と併用しつつ、島内全小中学校での授業実施を目指していきます。

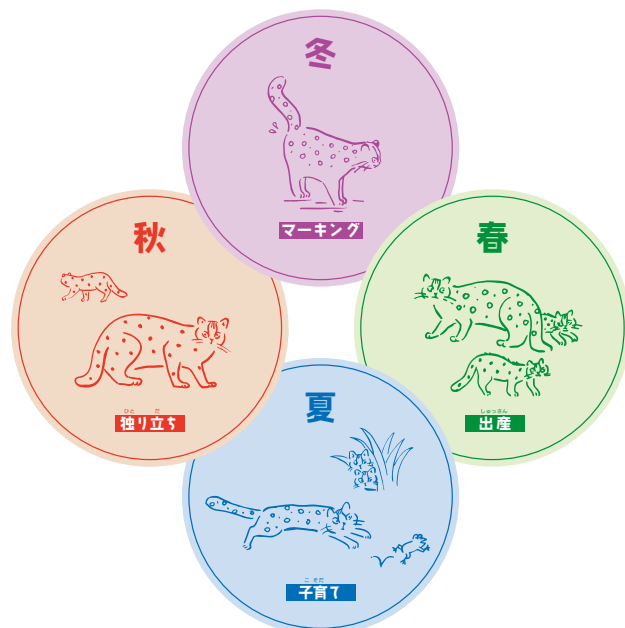


イリオモテヤマネコの日 / JTEF 西表島支部「やまねこパトロール」運営

毎年4月15日、竹富町条例で定めるイリオモテヤマネコの日ですが、2022年はオンラインイベント「知ろう!学ぼう!イリオモテヤマネコ」(後援:環境省西表野生生物保護センター、竹富町教育委員会、)を開催。島内外から約20名の方が参加しました。やまねこパトロールからはクイズなどを交えてイリオモテヤマネコの生態の解説や夜間パトロールの活動報告を行ったほか、環境省野生生物保護センターから、交通事故に遭ったイリオモテヤマネコの治療や野生復帰までの取組を、初公開の動画を交えて発表していただきました。2023年のイリオモテヤマネコの日は対面でのイベント開催を目指します。



【イリオモテヤマネコの一年】



教育・普及活動



多摩動物公園の干支展に、
トラ保護ポスターを出展
2022.1



イリオモテヤマネコの日(4月15日)記念
オンライン講座
「知ろう!学ぼう!イリオモテヤマネコ」
後援 環境省、竹富町 2022.4.23

環境省野生生物保護センターの方
と共に、ヤマネコの現状をより具
体的にお話し子どもたちからの
質問も活発でした。参加者22名

上野動物園で「国際トラの日」イベント:
「未来のためにトラ保護にトライ!」
2022.7.29-7.31

JTEFオリジナルポスターを読んで
答えるトラ保護クイズや「野生動物
サポートグッズ結」のトラTシャツ
も大好評。上野動物園のインスタ
ライブでもJTEFのパネルや活動
を紹介しました。



金沢動物園で「世界ゾウの日」に
ブース出展
2022.8.14

さわやかな夕暮れの風に吹かれな
がら、JTEFのブースにも大勢の
方にお立ち寄りいただきました。

クラウドファンディング
2021.11.1-15

やまねこパトロール・野生動物サ
ポートグッズ結との共同企画「ヤ
マネコTシャツを買ってイリオモテ
ヤマネコを守ろう!」47万2500円
をご寄付いただきました。

JTEF第4回 オンラインイベント
「寅年2022年を『トラを救う年』に!」
開催
2022.1.22

活動を始めて2度目の寅年に、
JTEFならではのトラ保護活動や、
今後、目指すことなどをお話しまし
た。参加者37名

JTEF第5回 オンラインイベント
「野生動物を守るために」開催
2022.5.14

JTEFのトラ、ゾウ、イリオモテヤ
マネコを担当してきたスタッフ3名
が、実際の保護活動を通じて見出
したことを、経験談とともに語りま
した。参加者43名

2022年世界ゾウの日イベント
横浜市立金沢動物園と共に
「ゾウレンジャー養成講座」
2022.8.6

小学4、5、6年生を対象に「ゾウ
レンジャー養成講座」を実施。
動物園スタッフによる鼻の使い方
などのガイドやJTEFから野生のゾ
ウの暮らし、現在さらされている脅
威について話し、ゾウの未来のた
めに何をすべきか考えました。



ディワリ・イン・ヨコハマに
ブース出展
2022.10.15-16



クラウドファンディング
2021.11.21-20

寅年に向けてトラ保護強化へ山火
事の拡大防止用リーフブローアー代
41万6280円をご寄付いただきま
した。

3年ぶりの
アースデイ東京に
参加しました
2022.4.16-17



横浜市立金沢動物園イベント
「Save the Animals ~わたしたち
の仲間が減っている~」に参加
2022.5.3-4

野生ではもはや見られない長い牙
をもつオスゾウ「ボン」を飼育して
いる金沢動物園で、JTEF坂元事
務局長のインタビュー動画を園内
で流しグッズ販売にご協力いただ
きました。



上野動物園で「世界ゾウの日」に
ブース出展 2022.8.12

今年で140周年の上野動物園で、
歴代ゾウの紹介パネルが貼り出さ
れたゾウ舎前でイベントが行われ
ました。JTEFもゾウのポスターを
貼り、保護グッズを販売。大盛況
でした。

井の頭自然文化園
「ヤマネコ祭り」出展
2022.10.29-30

こちらも3年ぶりの開催で、大勢
の家族連れで賑わいました。

トラ・ゾウ保護基金 2022年度予算(全体)

予算：収益

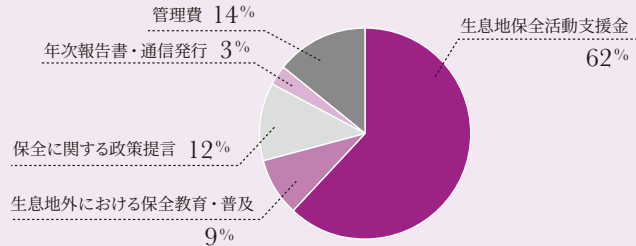
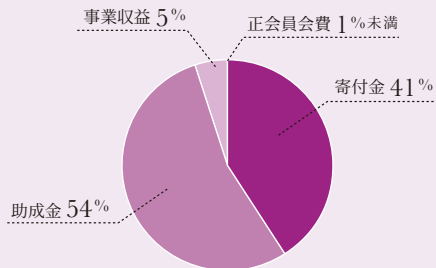
単位：円

正会員会費	102,000
寄附金	11,036,000
助成金	14,330,000
補助金	0
事業収益	1,223,000
合計	26,691,000

予算：費用

単位：円

生息地保全活動支援金	16,537,000
生息地外における保全教育・普及	2,503,000
保全に関する政策提言	3,147,000
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	757,000
管理費(人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他)	3,747,000
合計	26,691,000



2022年度 トラ保護基金 事業計画

● コリドーを守り、人とトラとのトラブルを防止します!

昨年度に引き続き、トラ生息密度が高い中央インド全体のトラ保護区で、保護区から分散した若いトラや、なわばりを持たない放浪トラが安心して行き来できるよう、保護区同士を繋いでいるコリドーを守ります。森に暮らす人とのトラブルを回避するために、保護区レンジャーへのトレーニング支援と共に、地域社会からのグリーンコリドーの守り手を増やし、人々の行動に注意を払い、トラにとっての脅威を防止します。



© WTI

● 生息地内の森林火災を予防し、延焼を防止します!

温暖化の影響と、中央インドの地域住民の慣習による人為的な森林火災は近年、深刻さが急速に増えています。今年度も森林火災の影響を抑止するための対策(最新の延焼防止・消火機材の導入など)をしっかりと行っていきます。



トラ保護基金 2022年度予算 (2022年11月1日～2023年10月31日)

予算：収益

単位：円

合計	5,184,755
-----------	------------------

予算：費用

単位：円

生息地保全活動支援金	4,175,000
生息地外における保全教育・普及	482,356
保全に関する政策提言	0
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	209,655
管理費(人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他)	679,488
合計	5,546,499

引き続き、プロジェクトへのご寄付をよろしくお願いいたします!

●南インド ケララ ゾウ保護プロジェクト

- ・ワヤナッド野生生物保護区内と、そこと大きな保護地域の間を結ぶコリドーで、ゾウと人とのトラブルの調整、森林火災の防止、違法行為の監視に当たるケララ州森林局のレンジャーに対する支援を強化します。
- ・ゾウのコリドーを保護する活動への地域住民の参加を強化します。



●日本の象牙市場の閉鎖

- ・東京都が「象牙取引に関する有識者会議」の提言した都内の象牙取引規制を行う条例を急ぎ実現するよう、世界のNGOと協力し、アフリカのゾウの生息国をはじめ各国にはたらきかけを行います。
- ・2022年11月14～25日に開催される第19回ワシントン条約締約国会議（パナマシティ）にオブザーバー参加します。そして、未だ国内象牙市場を閉鎖していない国の中でも、日本の象牙市場は違法輸出象牙の供給源になっていることを改めて、世界に訴えます。
- ・そのために、日本から密輸出された象牙が海外（中国）で押収され、裁判になった事例を分析してレポートします。



ゾウ保護基金 2022年度予算 (2022年11月1日～2023年10月31日)

予算：収益

単位：円

合計 12,790,000

予算：費用

単位：円

生息地保全活動支援金	4,175,000
生息地外における保全教育・普及	1,449,069
保全に関する政策提言	3,147,000
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	307,126
管理費（人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他）	2,242,169
合計	11,320,364

引き続き、
プロジェクトへのご寄付を
よろしくお願いいたします！

●注意喚起活動の強化

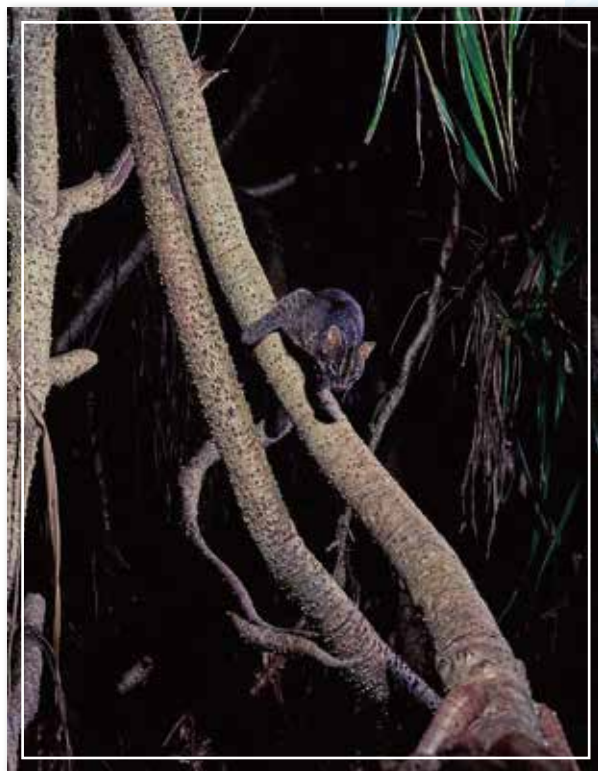
2020年以来約2年間、来島者数が減少していた西表島ですが、2022年は大幅に回復しており、特に夏はコロナ禍前の水準を超える観光客が押し寄せるといった結果になりました。今後はインバウンドの来島も増加することが予想されており、交通事故の増加が危惧されます。やまねこパトロールでは昨年よりヤマネコの目撃が多発している地点で光る看板や、のぼりを立て注意喚起活動を始めましたが、2022年度についてはさらに装備を充実させるとともに、実施回数も増やしていく予定です。

●事務局体制の強化と ヤマネコのいる暮らし授業の強化

大原地区で夜間パトロールに参加しているメンバーから新たに東部地区マネージャーを雇用し、主に大原地区でのパトロールメンバーの取りまとめやイベント、ヤマネコのいる暮らし授業開催における調整や補助を担当していただく予定です。

●イリオモテヤマネコの日イベント

2021年度は島内で新型コロナウイルスの感染が広がってしまったため、オンラインでの開催となりましたが、2022年度は2年ぶりの対面での開催を目指します。



© Susumu Murata



イリオモテヤマネコ保護基金 2022年度予算 (2022年11月1日～2023年10月31日)

予算：収益

単位：円

合計	8,716,245
----	-----------

予算：費用

単位：円

生息地保全活動支援金	8,187,000
生息地外における保全教育・普及	571,575
保全に関する政策提言	0
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	240,219
管理費(人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他)	825,343
合計	9,824,137

引き続き、
プロジェクトへのご寄付を
よろしくお願いいたします！

- 2021年11月22日_中日新聞:「脱象牙 奏でる新素材」_ 箏や三味線に象牙が使われ始めたのは江戸時代、しかも一般には木材を使っていた。明治時代は海外から象牙を大量に仕入れ、根付や彫刻として輸出。象牙加工が産業化し、内需拡大で邦楽器にも広がった。坂元事務局長は、政府は代替品の開発を支援すべきだと強調。
- 11月27日_図書館教育ニュース:「2022年の寅年はトラの未来を左右する重大な年」_ 野生のトラの現状と保護についての文が全国の学校に配布されました。(戸川理事長署名記事)
- 2022年1月1日_日本経済新聞:「寅年トラ保護ディスタンス」戸川久美_寅年 今こそ考えるトラ保護ディスタンス: 絶滅危機で基金設立など活動25年
元旦の日経新聞に掲載されたトラゾウ理事長のコラム。「保護とは、野生動物が本来のあり方のまま生きるのを、人間が邪魔することなく、共に存在できるようにすること」
- 1月1日_愛媛新聞:「保護と両立 島人奮闘/雄大原生林 間近に 西表島 ヤマネコの事故防止懸念」_ 島ではイリオモテヤマネコの交通事故被害が後を絶たず、夜間パトロールを行っている高山事務局長は、生息圏に入り込む人にヤマネコがなれると、集落に出て事故にあうおそれが高まると懸念する。「遺産登録で観光客が増えるだろう。ヤマネコと共存する島だと理解し、運転に気を付けてもらえないか」と述べた。
- 1月1日_京都新聞:「復帰50年の沖縄観光 青い海と森の島/雄大な原生林を遺産登録」
- 1月1日_琉球新報:「世界遺産と沖縄観光/原生林とヤマネコ 次代へ」
- 1月5日_中国新聞:「守ろう 美ら島の希少生物/ヤマネコ事故防止を」
- 1月6日_読売新聞:「絶滅が心配されるトラ 保護策で個体数回復の国も」
- 1月7日_かわさきFM 自然環境教育番組 TO THE NATURE:「寅年にトラの保護」_ 舞はるりさんのMCで戸川理事長がトラの現状と今後について話した。
- 3月12日_八重山毎日新聞:「10ヵ年計画策定へ」
- 3月27日_新潟日報デジタルプラス: 各国税関が押収の象牙、分析検討_ 日本は取引容認、批判も_ 坂元雅行事務局長は「国際社会は、日本の象牙市場が中国などへの違法輸出の供給源になっている」と懸念している」と指摘。「分析の結果、日本の市場が違法取引の一因だと明らかになれば、政府は説明の変更を迫られる」と話した。
- 7月13日_信濃毎日新聞: 日本の象牙市場転換迫る_ 坂元事務局長は「日本は象牙の消費大国としてアフリカ諸国の懸念に応え、締約国会議で市場閉鎖を宣言すべきだ。」と述べた。
- 7月20日_八重山毎日新聞: 管理計画案を承認 世界自然遺産西表島部会
- 8月10日_毎日新聞:「露トラサミット 黄信号」_ ロシアが国際社会で孤立する現状から、トラサミットが開催された場合でも、多額の資金援助をしてきたアメリカなどが参加をボイコットする可能性があると思われる。ただインドなど一部の国を除き、トラ対策に本腰を入れる様子も見えてこないだけに、戸川理事長は「仮にウクライナ振興が無かったとしても、12年前のように各国が結束できたかどうかはわからない」と話す。

事務局日誌

November 2021

- 11.1-15 クラウドファンディング やまねこパトロール-野生動物サポートグッズ結との協働企画「ヤマネコTシャツを買ってイリオモテヤマネコを守ろう!」
- 11.4 「ヤマネコのいるくらし授業」を西表小中学校の全校生徒で行う
- 11.15 西表島上原小学校で「ヤマネコのいるくらし授業」
- 11.17 やまねこパトロール高山事務局長、除草作業
- 11.21-12.20 クラウドファンディング「寅年2022年を『トラを救う年』に!」野生のトラを絶滅させないための支援を!

December

- 12.7 上原小学校での「ヤマネコのいるくらし」授業第二弾
- 12.23 西表小学校での「ヤマネコのいるくらし」授業第二弾

January 2022

- 1.7 かわさきFM「自然環境教育番組 TO THE NATURE」で「寅年にトラの保護」戸川理事長出演
- 1.17 多摩動物園の干支展にトラ保護ポスターで参加
- 1.22 JTEF 第4回オンラインイベント「寅年2022年を『トラを救う年』に!」開催
- 1.27 やまねこパトロール、沖縄県へ「持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画」に対する意見書を送付。

February

- 2.2 西表小学校でのヤマネコ授業
- 2.5 西表島県道下のアンダーパスの清掃
- 2.7 西表島 上原幼稚園にて「ヤマネコのいるくらし」授業
- 2.16 西表島上原小学校にて「ヤマネコのいるくらし」授業
- 2.17 西表島県道下のアンダーパス清掃

March

- 3.4 西表島県道下のアンダーパス清掃
- 3.10 7日から開催のワシントン条約常設委員会(フランス・リヨン)にオブザーバー参加し17の世界のNGOを代表して意見を述べる
- 3.10 西表島県道下のアンダーパス清掃
- 3.15 西表島上原小学校にて「ヤマネコのいるくらし」授業
- 3月 トラ冊子発行

April

- 4.16-17 アースデー東京に参加
- 4.23 「イリオモテヤマネコの日」記念オンライン講座「知ろう!学ぼう!イリオモテヤマネコ」開催
- 4.28 西表島県道横の草刈り
- 4.30 かわさきFM「イリオモテヤマネコを交通事故から守ろう」放映。西表島支部やまねこパトロール高山事務局長出演

May

- 5.3-4 横浜市立金沢動物園イベント「Save the Animals ~わたしたちの仲間が減っている~」に参加
- 5.14 JTEF 第5回オンラインイベント「野生動物を守るために」開催
- 5.16 JTEFを含む27の世界のNGOが東京都知事に書簡「東京都教育委員会が提言した都内象牙市場閉鎖条例の速やかな検討を!」
- 5.23 大阪の小学生とイリオモテヤマネコのオンラインミーティング

July

- 7.29-31 上野動物園と「世界トラの日イベント」
- 7.25 竹富町教育委員会と共催でイリオモテヤマネコ学習現地研修会オンラインで開催

August

- 8.6 横浜市立金沢動物園とコラボで世界ゾウの日イベント「ゾウレンジャー養成講座」開催
- 8.12 上野動物園で「世界ゾウの日」にブース出展
- 8.14 金沢動物園で「世界ゾウの日」にブース出展
- 8.25 西表小中学校の構内研修「やまねこ学習」で高山事務局長が講師に

September

- 9.1 西表小学校で「ヤマネコのいるくらし」授業
- 9.8 大原中学校で「ヤマネコのいるくらし」授業
- 9.21 県道の草刈り

October

- 10.15 ディワリン横浜 山下公園でブース出展
- 10.24 西表小学校で「ヤマネコのいるくらし」授業
- 10.29-30 井の頭自然文化園で「ヤマネコまつり」ブース出展

今年も
やります!

**イベント
カレンダー**

新型コロナウイルスの
状況次第で変更あり。
詳細はJTEFのHPで
ご確認ください。
→「トラゾウ保護」で検索



上野動物園
世界野生生物の日 記念イベント

3/3(金)4(土)5(日) : 3/5(日)

五重塔前 : 五重塔前

野生動物サポートグッズ結 : 子ども向けトラトーク

グッズ販売 : プース展示

10:00-16:00

4/8(土)

東京世田谷区
白梅福祉作業所
さくら祭り

10:00-14:00

4/15(土)16(日)

アースデー東京

ブース展示
(代々木公園)

4/15(土)

イリオモテ
ヤマネコの日

詳細未定
(横浜市立金沢動物園)

4~5月のGW

詳細未定
(横浜市立金沢動物園)

JTEFの活動をご支援ください!

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

年間サポーター費・随時(任意額) 寄附のお支払方法

JTEFのウェブサイトからクレジットカードで簡単にご寄附いただけます。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。
ゆうちょ銀行: 口座番号) 00170-7-355897 加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ・ゾウ保護基金へのご寄附は、
確定申告で納められた所得税の控除(還付)を申告できます

2022年1月1日以降2022年12月31日の間にいただいた年間サポート寄附と随時の寄附は、合計で2,000円を超えると令和4年分の所得税の控除申告ができます。ぜひご利用ください。
確定申告の受付は、2023年3月15日(水)まで。



特定非営利活動法人
トラ・ゾウ保護基金
JTEF
http://www.jtef.jp

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F
Tel: 03-3595-8088 Fax: 03-3595-8090
E-mail: hogokikin@jtef.jp URL: www.jtef.jp
郵便振替口座: ゆうちょ銀行 口座番号) 00170-7-355897
加入者名) トラ・ゾウ保護基金

年次報告書
トラ保護基金 vol.25
ゾウ保護基金 vol.22
イリオモテヤマネコ保護基金 vol.13
2023年2月28日発行
発行人: 戸川久美 編集: 戸川久美
レイアウト: 土肥優子